

1983.8.16 朝刊

日 一 斧 扇 開

揚子江にそそぐクリークにたまたま中国人の死体



大屠殺の死体、それを焼却した
あと現場を見下す日本軍
の姿などの生きしきが見られる
にショックを与えている。
この写真を撮影、保管して
いたのは、埼玉県川越市仙波
町の五、会社経営、村瀬守
さん(64)。村瀬さんは十二
年七月に応召、兵站(たん)
自動車第十七中隊に配属され
た。半月後、二等兵として中
國大陸に渡ったが、兵器や糧

隊員の一人が事件直後に南
京入り、カメラに収めた写真
が十五日から東京・渋谷の山
手教会で始まった「戦争資料
展」で公開された。六枚組
で、揚子江沿岸に流れ着いた
隊員の一人が事件直後に南
京入り、カメラに収めた写真
が十五日から東京・渋谷の山
手教会で始まった「戦争資料
展」で公開された。六枚組

南京大虐殺「これが現場だ」

1週間後に撮影 元兵士が公開

に駐屯、米や酒を迎ため、
城内に入った際、残虐行為の
跡を目撃したという。

このほど村瀬さんが戦争
体験談を前回(本紙)の機関紙に
掲載したことがきっかけで、
同郷関係者から依頼を受け出
展した。

村瀬さんは、これまで公
開しなかったことについて
「当時の狂気をいま理解する
ことは難しく公表する気には

七平氏の「私の中の日本軍な
ど伝えられる大虐殺事件の存
在を否定する意見も根強い。
南京事件の研究者で、同展
の出品写真を見た同富雄元早
教授は、「六枚の写真は南京
城北側の城壁付近。これまで
撮影時期と場所が確実で信頼
できる写真資料はほとんどな
く、日本兵の手で事件直後に
撮影された写真が出てきたこ
とは貴重だ」と語っている。

南京城内で中国人の死体を
占領(十二月十三日)の一週
間十日ほどあとのこと、
松井石根大将が事件の責任を
負うと指摘し、撮影したのは同年十一月下旬。日本軍による南京
占領(十二月十三日)の一週間十日ほどあとのこと、
松井石根大将が事件の責任を
負うと指摘され、中隊長から「戦
場の模様と兵隊の日常を記録
せよ」と指示されたという。
南京城内で中国人の死体を
占領し、撮影したのは同年十一
月下旬。日本軍による南京
占領(十二月十三日)の一週
間十日ほどあとのこと、
松井石根大将が事件の責任を
負うと指摘され、中隊長から「戦
場の模様と兵隊の日常を記録
せよ」と指示されたという。
南京城内で中国人の死体を
占領し、撮影したのは同年十一
月下旬。日本軍による南京
占領(十二月十三日)の一週
間十日ほどあとのこと、
松井石根大将が事件の責任を
負うと指摘され、中隊長から「戦
場の模様と兵隊の日常を記録
せよ」と指示されたという。

は四十三万人。「東京裁判」
では、当時の方面軍司令官・
軍人、作家、鈴木明氏の「南
京大虐殺のまぼろし」、山本
村瀬さんの中隊は南京郊外
に駐屯、米や酒を迎ため、
城内に入った際、残虐行為の
跡を目撃したという。

なれなかつた」と話している。
南京大虐殺事件は、昭和十
五年十二月十三日から十七日
にかけて行われたとされてい
る。中国側によると、犠牲者
は四十三万人。「東京裁判」
では、当時の方面軍司令官・
軍人、作家、鈴木明氏の「南
京大虐殺のまぼろし」、山本
村瀬さんの中隊は南京郊外
に駐屯、米や酒を迎ため、
城内に入った際、残虐行為の
跡を目撃したという。